



## 笠野 真喜議員

### 外国人との交流は

#### 笠野議員

#### ①アイデアITカレッジと文化・食文化、子どもたちとの遊びの交流は

アイデアITカレッジは学生の4割が外国籍と聞いている。異国文化を持った学生から、外国語のほか童話・童謡・ゲーム・手遊びなど異文化交流をし、将来、南阿蘇の国際人育成の礎になるのではないかと。食文化の交流は、子どもや保護者が集い、各国のお菓子・家庭料理の作り方を学び、食べながら交流を深め、将来は村に住んでいただき、国際食堂を経営してもらおう。子どもたちが外国を訪ねる機会となるかもしれない。アイデアITカレッジが交流の場となったらと考える。

#### ②台湾、シンガポールの文化・農産物は

村長が前向きに検討しているので、今後の台湾交流の説明をお願いします。

シンガポールの交流は、現在長陽パークゴルフ場をシンガポール関係の株式会社SOLVで指定管理されている。指定管理を受けている間、シンガポールとのつながりを作っていくと聞いている。社長は、農産物関係の輸出は、いつでも対応できると言われた。またJAや農産物出荷組合と協議し、取り組んでいただきたい。

昨年、文教厚生常任委員で新上五島町に研修に行き、シンガポールに15人ほど留学させると聞き、本村ではどうにかならないかと思っていた。留学も協力すると言われた。新上五島町に子ども会の交流で、副村長と教育長も同行される。教育委員会の方々とシンガポール留学の調査研修を行い、本村でも前向きに検討してもらいたい。

#### ③村在住の方々との食文化・外国語交流は

本村も外国籍の方がたくさんおられ、外国語交流がされている。学校や老人会の通いの場にも積極的に参加し、異文化の話やお互いに家庭料理を作り、話し合いをする機会を作っては。



アイデアITカレッジの文化祭

### 積極的に交流をすすめる

#### 村長

①アイデアITカレッジ阿蘇との文化、食文化、子どもたちとの遊び場の交流は、熊本地震後、地域のにぎわいを取り戻し、活性化につながることを目的としてIT専門学校は設立された。開校後は、村内の小・中学校でプログラミング・ドローン教室など学びの機会を設けていただいている。事業者や次世代人材育成にむけSNS活用セミナーやITプログラミング講座など開催。ITC能力向上のためさまざまな取り組みを行なっている。文化祭では、地域住民との交流を図り、積極的に多文化共生に取り組んでいる。今後、子どもたちとの遊びや食文化の交流を進める。

②生鮮食品や農産物の輸出は、台湾の規制が厳しく、ハードルが高い。台湾から日本に輸出はできるが、日本から台湾へは規制が厳しい。今後、関係機関と協議を行い、農産物の交流を進める。県が、台湾市内で熊本フェアを開催している。今後、イベント等の開催があれば、外国販売に興味ある村内事業者等に情報を共有し参加いただければと考えている。

提案頂いたシンガポールも、台湾同様交流を進めていく。

③多文化共生事業で採用された協力隊が、多文化共生のブースをあそ望の郷のベランダで、外国のお菓子や飲み物を展示。約100名が立ち寄り、興味・関心を持たれた。日本語サークルを月1回開催。村内在住の外国人を対象に、ボランティアサポーターと交流を行なっている。今後、LOOPみなみあそ図書室の事業で、村内在住の外国人が気軽に村民と交流し互いの文化に理解を深め、共生社会を目指すイベントを計画していく。